

結果の見方

指導区分	1	異常なし
	2	軽度異常あるも日常生活に支障なし
	3	軽度異常あり生活習慣改善、又は経過観察を要す
	4	治療を必要とします
	5	精密検査を必要とします
	6	現在治療中

検査項目	検査内容		
身体計測	体型が適正かどうかみる検査です。BMI25以上、腹囲は男性が85cm以上、女性が90cm以上が肥満の基準です。内臓脂肪が過剰になると糖尿病や心筋梗塞などを引き起こしやすくなります。		
血圧	収縮期(最大)血圧は心臓から血液が送り出されるとききの血圧で、拡張期(最小)血圧は血液が心臓に戻るときの血圧。高血圧の状態が続くと動脈硬化を招きやすく、心筋梗塞や脳卒中を引き起こす要因になります。		
視力	0.6以下の場合には自分に合った眼鏡などで矯正することが必要です。		
眼底	動脈硬化の程度、高血圧や糖尿病による眼の合併症や緑内障・白内障の有無などを調べる検査です。		
聴力	1000Hz(低音域)と4000Hz(高音域)に難聴がないか調べる検査です。		
肺機能	%肺活量	79.9%以下では、間質性肺炎や肺線維症などが考えられます。	
	1秒率	69.9%以下では、慢性気管支炎や肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患(COPD)が考えられます。	
尿検査	蛋白	腎機能が低下すると体にとって必要な蛋白が尿中にもれ出てきます。	
	潜血	陽性の場合、尿路感染症、膀胱炎、糸球体腎炎などが考えられます。	
	ウロビリノーゲン	ビリルビンが変化したもので、大量に出た場合は肝臓に障害がある疑いがあります。	
	尿沈渣	尿の沈殿物を顕微鏡で見て、腎機能をはじめ全身の病気を診断する手がかりとなります。	
大腸(便潜血)	陽性(+)の場合、消化管の出血性の病気、大腸ポリープ、大腸がんなどが疑われます。		
血液一般	白血球数	感染症や炎症の有無、白血病等を診断する検査です。	
	赤血球数	低値なら貧血、高値なら多血症が疑われます。	
	ヘモグロビン	酸素や二酸化炭素の運搬役で、低値では貧血が疑われます。	
	ハマトクリット	血液中の赤血球の容積を%で示したものです。貧血、脱水症、多血症などが分かります。	
	血小板数	高値なら血小板血症、鉄欠乏性貧血などが疑われ、低値なら再生不良性貧血などが疑われます。	
	M C V	赤血球の体積を表します。	
	M C H	赤血球に含まれる色素量の割合を表します。	
	M C H C	赤血球体積に対する色素量の割合を示します。	
	血液像	好酸球	高値ならアレルギー性疾患を疑います。
		好塩基球	高値ならアレルギー性疾患や甲状腺機能低下、慢性骨髄性白血病等を疑います。
好中球		高値なら急性細菌感染症、低値ならウイルス性疾患などを疑います。	
単球		高値なら発疹性感染症や慢性肝炎を疑います。	
	リンパ球	高値ならウイルス性感染症、低値なら急性感染症の初期や悪性リンパ腫などを疑います。	
炎症	急性の炎症や感染の有無を示しています。		
代謝系	空腹時血糖	血液中のブドウ糖の量で、高値なら糖尿病などを疑います。	
	H b A 1 c	過去1~2か月の平均的な血糖の状態をみる検査です。	
	尿糖	血液中のブドウ糖が尿中に排泄されたもので、糖尿病の進行具合を判断することができます。	
痛風	体内のプリン体の最終産物で血液に溶けにくく、多くなると結晶化して痛風の原因となります。		
脂質	総コレステロール	血液中のコレステロールの総量で、多すぎると動脈硬化などの生活習慣病の原因となります。	
	HDLコレステロール	善玉コレステロールともいい、動脈にたまったコレステロールを肝臓に運んで処理をする働きがあります。	
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールともいい、多いと動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳卒中を起こす危険性を高めます。	
	中性脂肪	皮下脂肪の主成分で、動脈硬化や肥満の原因となります。	

検査項目	検査内容	
肝機能	総ビリルビン	ヘモグロビンの代謝産物で、胆汁色素の主成分で体内にたまると黄疸を呈します。
	A S T / A L T	肝臓機能の異常に反応し、高値なら肝炎、脂肪肝、肝がんなどを疑います。
	γ - G T P	肝・胆道系に障害があると上昇し、高値ならアルコール性肝障害、薬剤性肝障害などが疑われます。
	A L P	肝臓や骨などの広く分布する酵素で、肝臓、胆のう、骨などの異常の有無をみます。
	C H E	肝細胞で作られる酵素で、肝機能が低下すると酵素を作る能力が下がるため数値が低下します。
	総蛋白	血液中の総蛋白の量を表します。高値なら感染症や血液疾患、低値なら栄養障害などを疑います。
	アルブミン	食物から得たタンパク質が体内で合成されたもので、肝障害や栄養不良があると低値になります。
肝炎	H B s 抗原	陽性の場合、B型肝炎ウイルスに感染し、現在感染状態である可能性があります。
	H B s 抗体	陽性の場合、B型肝炎ウイルスに対する抗体(抵抗力)がある状態です。
	H C V 抗体	陽性の場合、C型肝炎の既往、または感染状態である可能性があります。
腎機能	クレアチニン	体内の老廃物の1つで、腎臓から排泄されます。高値なら腎機能低下を意味しています。
	e G F R	クレアチニン値を用いて算出される腎機能を推測できる指標です。
	尿素窒素	タンパク質が分解される際の老廃物の1つで、高値なら腎機能障害などを疑います。
膵機能	血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。高値なら膵炎や唾液腺疾患を疑います。
腫瘍マーカー	C E A	大腸・胃・膵臓など消化器がんをスクリーニングする検査です。
	A F P	肝臓がんなどをスクリーニングする検査です。
	C A 19 - 9	膵臓がんなど消化器がんをスクリーニングする検査です。
	C A 125	卵巣がん、乳がんなどをスクリーニングする検査です。
	P S A	前立腺肥大や前立腺がんをスクリーニングする検査です。
抗ヘリコバクターピロリ抗体	ピロリ菌感染の既往や感染状態が疑われます。	
B N P	心臓への負担をおおまかに知ることができる検査です。	
安静時心電図	心臓の拍動に伴って発生する微細な電気を捉えてグラフに描く検査で、心疾患の診断に有効な検査です。	
胸部X線	レントゲンで肺・気管・気管支など胸部の異常の有無を調べる検査です。	
胸部CT	CTで肺・気管・気管支など胸部の異常の有無を調べる検査で、レントゲンより詳しい検査ができます。	
腹部超音波	超音波を使って、肝臓・胆のう・腎臓などの腹部臓器の異常を画像に映し出して調べる検査です。	
腹部CT	CTで肝臓・胆のう・腎臓などの腹部臓器の異常を画像に映し出して調べる検査で、超音波より詳しい検査ができます。	
胃透視	バリウムを飲んで、食道・胃・十二指腸など上部消化管の形や変化を調べる検査です。	
胃カメラ	内視鏡で胃・食道・十二指腸の粘膜表面を直接観察することができる検査です。	
大腸カメラ	内視鏡で下部消化管の粘膜表面を直接観察することができる検査です。	

～健診の後に～

- 異常がなかった方 : 今の健康な状態が継続できるように生活習慣を見直しましょう。
- 異常値があった方 : 生活習慣の改善に努め、より健康な状態へ戻れるようにしましょう。
- 治療が必要な方 : 医療機関を受診し、医師とよく相談しましょう。
- 精密検査が必要な方 : 早期発見・早期治療が重要です。必ず精密検査を受けましょう。
- 治療中の方 : 今回の結果を主治医に見てもらってください。